

**令和5年度  
全国学力・学習状況調査 結果概要**

**熊本県教育委員会**

# 1 調査の概要

- 調査実施日 令和5年（2023年）4月18日（火）

- 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

- 調査の対象

- ・ 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年の全児童
- ・ 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全生徒

- 調査の内容

- ・ 教科に関する調査（小学校：国語・算数、中学校：国語・数学・英語）
- ・ 質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

## 2 教科に関する調査の結果（公立小中学校）

本県の概要

- ・ 小学校では、**国語は全国平均とほぼ同じ状況であり、算数は全国平均を下回っている。**
- ・ 中学校では、**国語は全国平均とほぼ同じ状況であり、数学と英語は全国平均を下回っている。**

	【小学校6年生】	
	国語	算数
熊本県	67%	61%
全国	67.2%	62.5%

	【中学校3年生】		
	国語	数学	英語
熊本県	69%	48%	42%
全国	69.8%	51.0%	45.6%

※表中の数値は平均正答率（%）、県の値は国から整数値で公表

### 3 質問紙に関する調査の主な結果（公立小中学校）

	質問項目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
児童生徒	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか （「ほぼ毎日」＋「週3回以上」の割合）	71.6	62.4	+9.2	66.7	61.1	+5.6
	学校に行くのは楽しいと思いますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	88.4	85.3	+3.1	84.0	81.8	+2.2
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	90.2	89.8	+0.4	88.1	87.3	+0.8
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか （「発表していた」＋「どちらかといえば、発表していた」の割合）	59.6	63.7	-4.1	51.4	62.1	-10.7
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	75.6	78.8	-3.2	72.7	79.2	-6.5
	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む） （「よくしている」＋「ときどきしている」の割合）	68.5	70.7	-2.2	51.3	55.0	-3.7
学校	近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか （「よく行った」＋「どちらかといえば、行った」の割合）	67.3	58.2	+9.1	76.5	67.3	+9.2
	教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか （「週に1回程度、または、それ以上行った」＋「月に数回程度行った」の割合）	83.8	76.5	+7.3	67.4	61.4	+6.0

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

単位(%)

### 3 質問紙に関する調査の主な結果（特徴的な項目）

#### ■ 全国平均を上回っていた項目

- ・「授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、週3回以上使っている」、「学校に行くのは楽しい」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」等と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回っている。
- ・「近隣等の中学校（小学校）と、研究授業を行うなど、合同で研修を行った」、「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行った」等と回答した学校の割合が、全国平均を上回っている。

「誰一人取り残さない学びの保障」に向けて、教職員が子供たちに丁寧に対応するとともに、I C Tの活用や小中連携などにも取り組んだ結果。

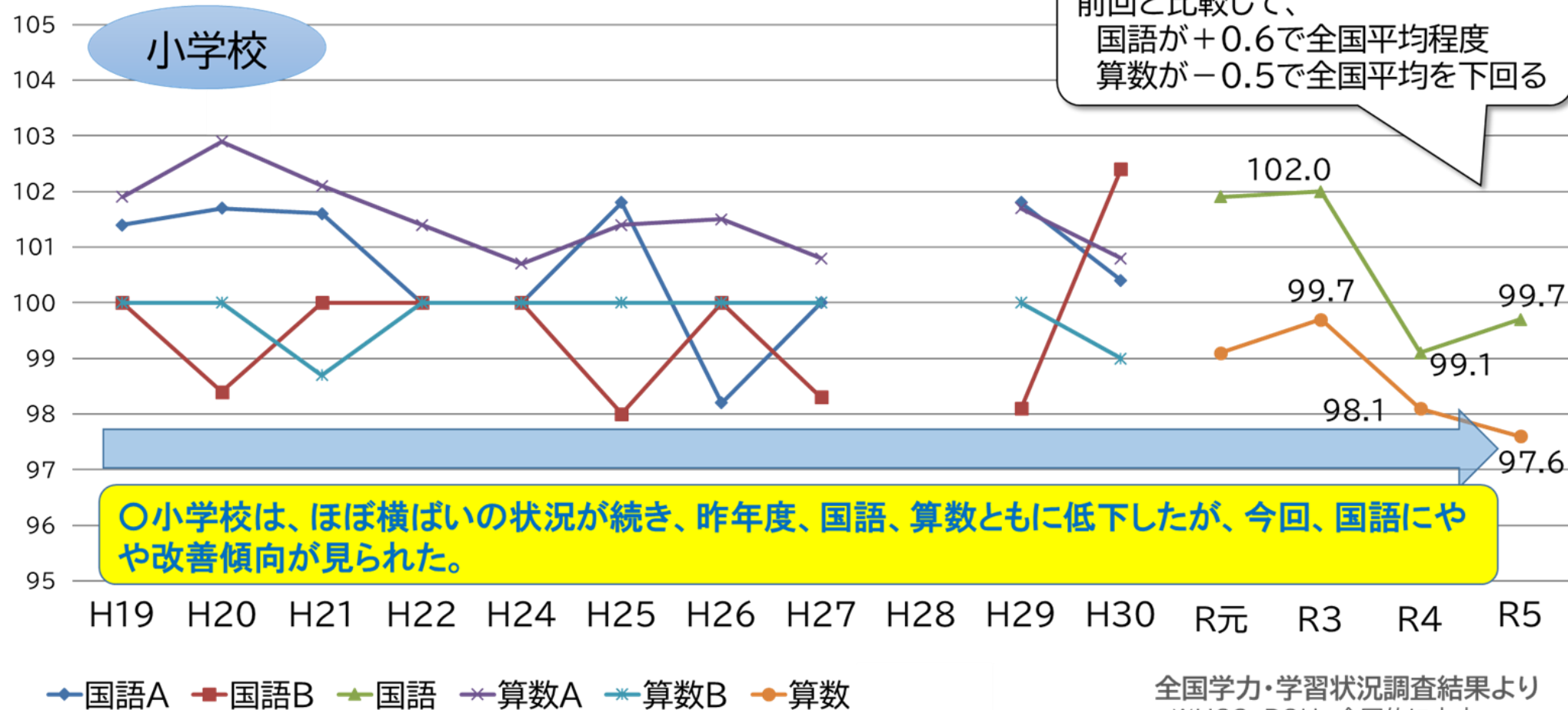
#### ■ 全国平均を下回っていた項目

- ・「授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」、「家で自分で計画を立てて勉強している」、等と回答した児童生徒の割合が、全国平均を下回っている。

子供たち自身が、主体的に学習に取り組んでいるという実感が持てるような授業に向けて、子供の学びの側に立った授業改善の取組を、引き続き進めていく必要がある。

# 参考資料 教科に関する調査の結果の推移①（小学校） H19～

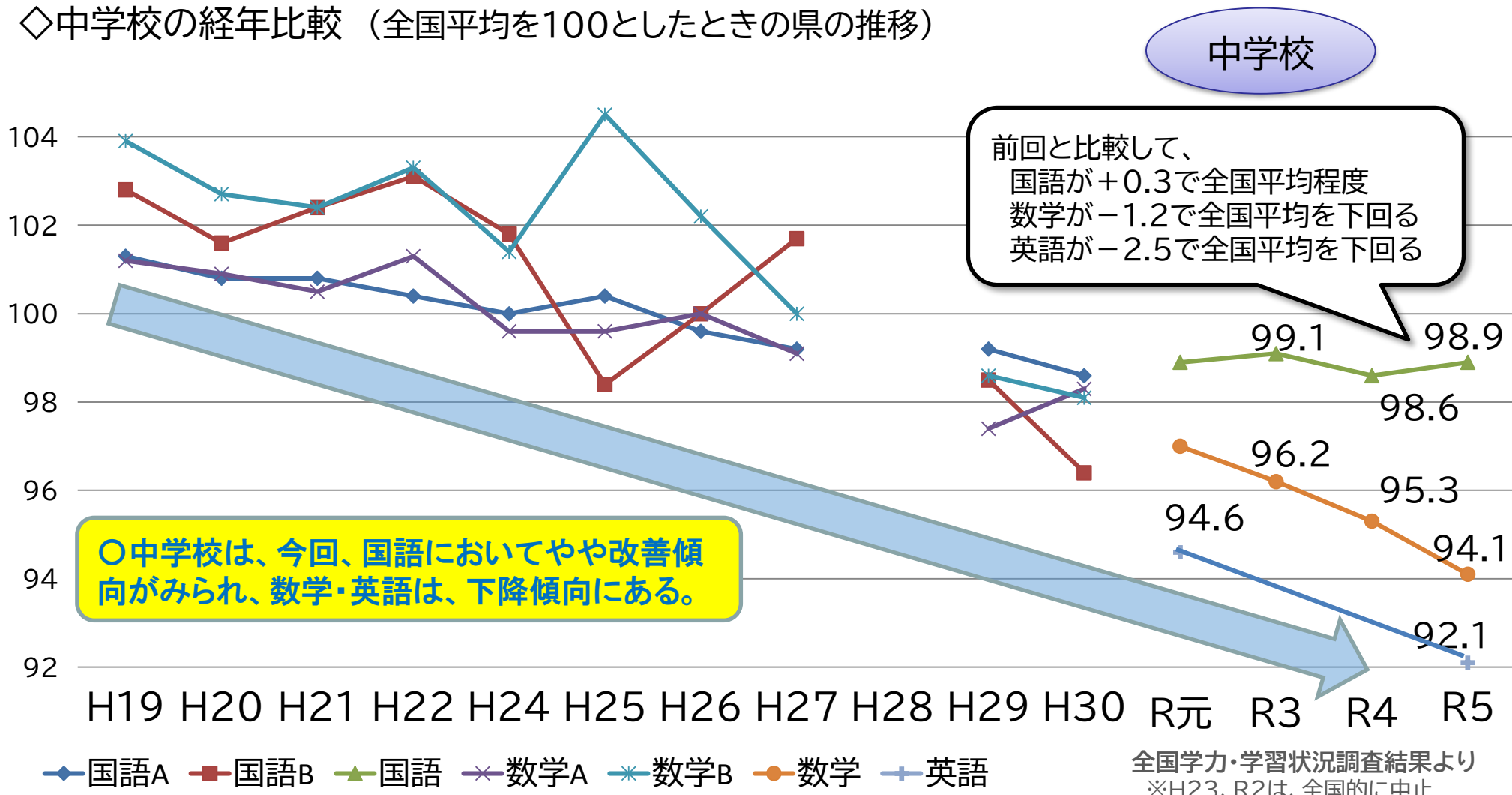
◇小学校の経年比較（全国平均を100としたときの県の推移）



全国学力・学習状況調査結果より  
※H23、R2は、全国的に中止  
※理科については省略

# 参考資料 教科に関する調査の結果の推移②（中学校） H19～

◇中学校の経年比較（全国平均を100としたときの県の推移）



全国学力・学習状況調査結果より  
※H23、R2は、全国的に中止  
※理科については省略

## 課題の改善に向けた重点取組

目標：本県の子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障する

【次の検証(R5全学調)へ向けて、学校総体で重点的に取り組むこと】

### <本年度中に実施すること>

#### ●各教科における課題の克服

##### ①課題である問題の確認とその克服 (特に、正答率3割未満の児童生徒への指導の充実)

※個人票を基に、子供一人一人へ意欲を最大限高める声掛けを行い、課題克服の方法についてアドバイスする。  
※フォローアッププリント等を活用し、一人一人の課題克服と、克服状況の確認を行う。  
【参考】単元末における全学調等問題の活用、全学調等問題と類似した定期テスト問題の作成【県教育委員会HP】  
県学調における「継続して課題である問題」の克服に向けた指導のポイント等を活用【県教育委員会HPに掲載予定(2月中)】



### <本年度中及び次年度を含めて継続すること>

#### ●児童生徒を「学びの主体」とするための指導の充実

##### ①授業における主体的な学びを促す学習活動の充実

※単元全体を見通して、「自分で考える」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」等の自ら取り組む学習場面を確実に設定する。

##### ②家庭学習における主体的な学びの充実

※児童生徒が計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、丁寧な指導を行う。

##### ③定着確認の徹底

※単元(授業)ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているか確認し、分かる喜びや達成感が実感できるよう、身に付くまで粘り強く指導する。



参考:「熊本の学び推進プラン」取組事例集等に、各学校の特色ある取組を紹介しています。  
ぜひ、ご覧ください。(R4取組事例集については、本年度中に県教育委員会HPに掲載予定)



別紙資料1

(R5全国学力・学習状況調査本について検証)

【参考指標1】児童生徒質問紙  
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【参考指標2】児童生徒質問紙  
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

【参考指標3】児童生徒質問紙  
家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。



各教科の平均正答率

状況の向上を目指す

昨年度の全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、「児童生徒を『学びの主体』とするための指導の充実」に課題があることが分かり、課題の改善に向けた重点取組を掲げ、その取組の結果を見取るための参考指標を設定しました。